

ワーク・ライフ・バランス推進のための意識調査(個人調査の速報)

【C】男性の家事・育児参加に関する分析(案)

男性の家事・育児参加に関する調査＜回収設計＞

対象者条件：6歳未満の子（第1子）と配偶者と同居中の20歳以上の男性で、

有職者

※非正規社員は週30時間(h)以上の労働者

<本調査設計>

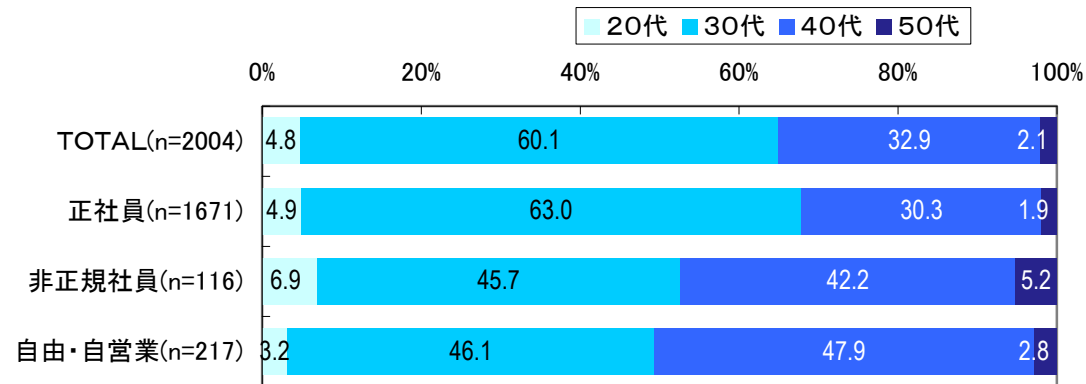
	正社員	非正規・その他 (週30h未満)	非正規・その他 (週30h以上)	専業主婦	計
正社員	540	400	200	540	1680
非正規社員（週30h以上）		70		50	120
自由業・自営業	50	50	50	50	200
					2000

<本調査回収>

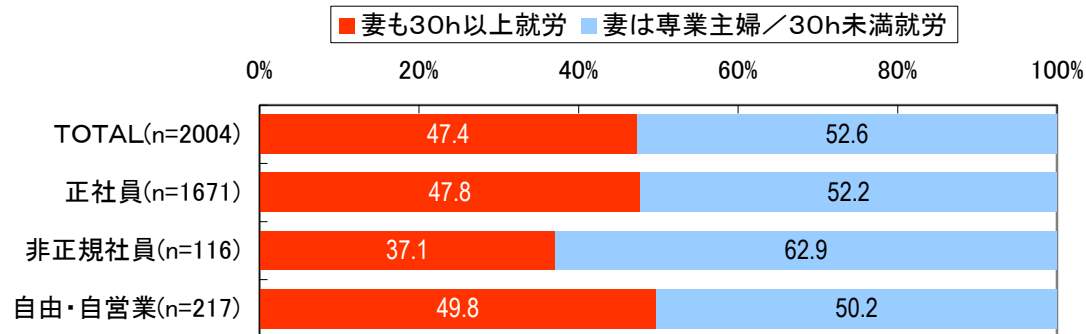
	正社員	非正規・その他 (週30h未満)	非正規・その他 (週30h以上)	専業主婦	計
正社員	571	372	227	501	1671
非正規社員（週30h以上）		66		50	116
自由業・自営業	51	62	57	47	217
					2004

男性の家事・育児参加に関する調査<回答者属性>

<年代比率>



<夫婦の働き方>

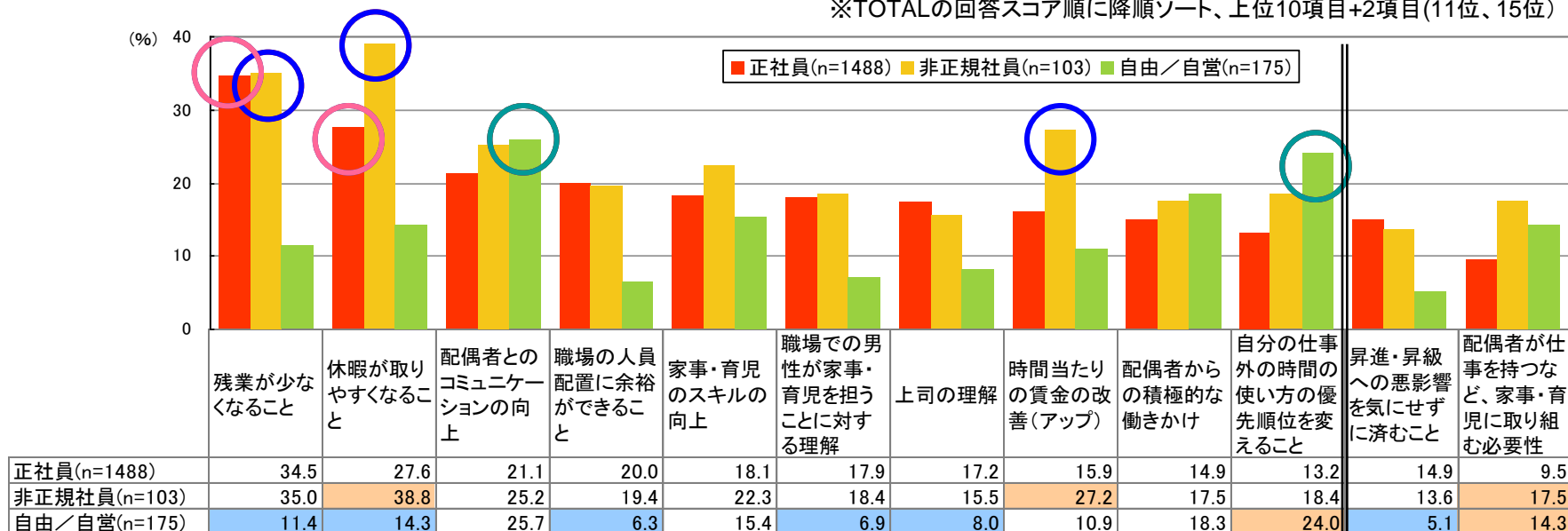


家事・育児参画に必要と考えること (1)雇用形態別

- 家事・育児の取組を増やすために必要と考えることは、雇用関係で結果に差が出ている。
 - ・正社員では「**残業の削減**」「**休暇の取りやすさ**」
 - ・非正規社員で顕著に多いのは「**休暇の取りやすさ**」「**賃金の改善**」であり、「**残業の削減**」も正社員同様に多い。
 - ・自由・自営業では「**配偶者とのコミュニケーションの向上**」「**時間の使い方の優先順位を変える**」
- 雇用者では「**労働時間**」「**休暇**」の問題、自由・自営業では「**意識**」の問題が要因が大きい。

●雇用形態別の平日の家事・育児を増やすために必要だと思うこと (複数回答)

※TOTALの回答スコア順に降順ソート、上位10項目+2項目(11位、15位)



Q.あなたが平日の家事・育児を今まで以上にするために何が必要だと思いますか。(複数回答)【家事または育児が十分に実施できていない人】

※家事・育児ともに「十分していると思う」238s (14.2%)

※■は、正社員に対して5%水準で有意に高い

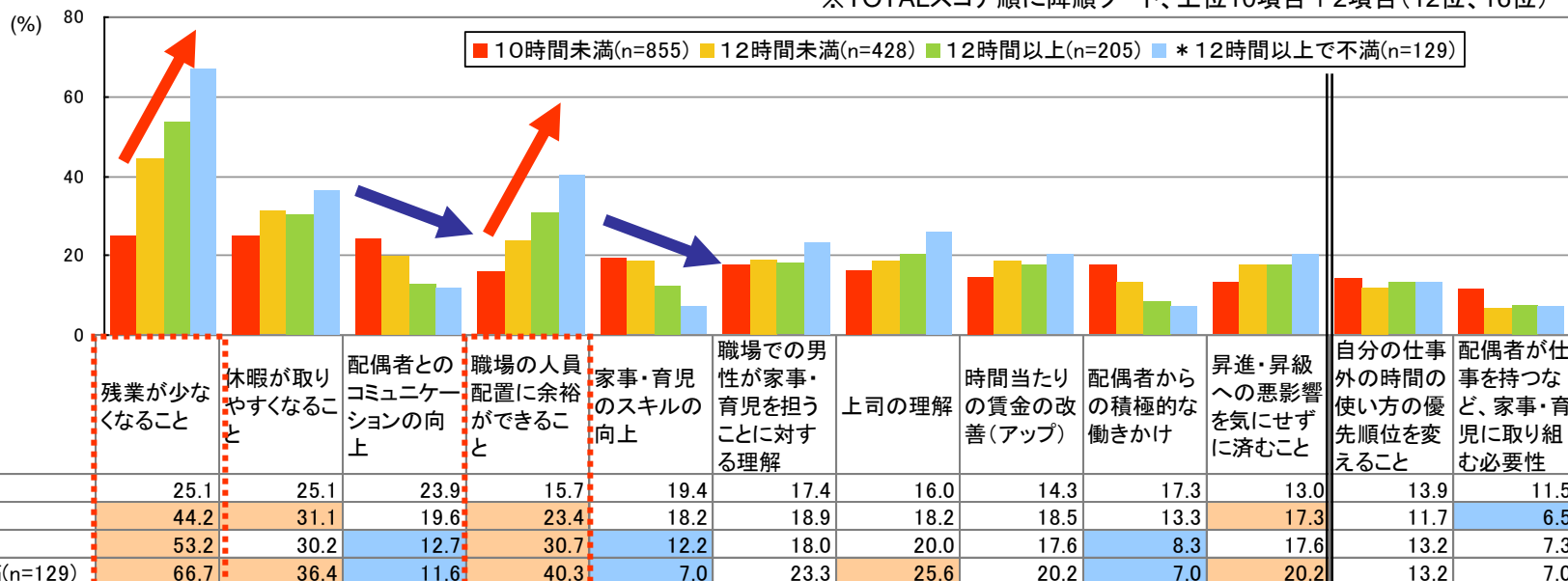
※■は、正社員に対して5%水準で有意に低い

家事・育児参画に必要と考えること (2)労働時間別【正社員】

- 労働時間が長くなるほど、「残業が少なくなること」、「職場の人員配置に余裕ができること」への要望が高い。12時間以上では「残業が少なくなること」が53.2%である。
- 10時間未満では、「配偶者とのコミュニケーション」や「家事・育児スキルの向上」も高い。

●労働時間別の平日の家事・育児を増やすために必要だと思うこと（複数回答）

※TOTALスコア順に降順ソート、上位10項目+2項目(12位、16位)



※「12時間以上不満」は、12時間以上労働者で、現在の労働時間について「やや不満」「不満」と回答した人

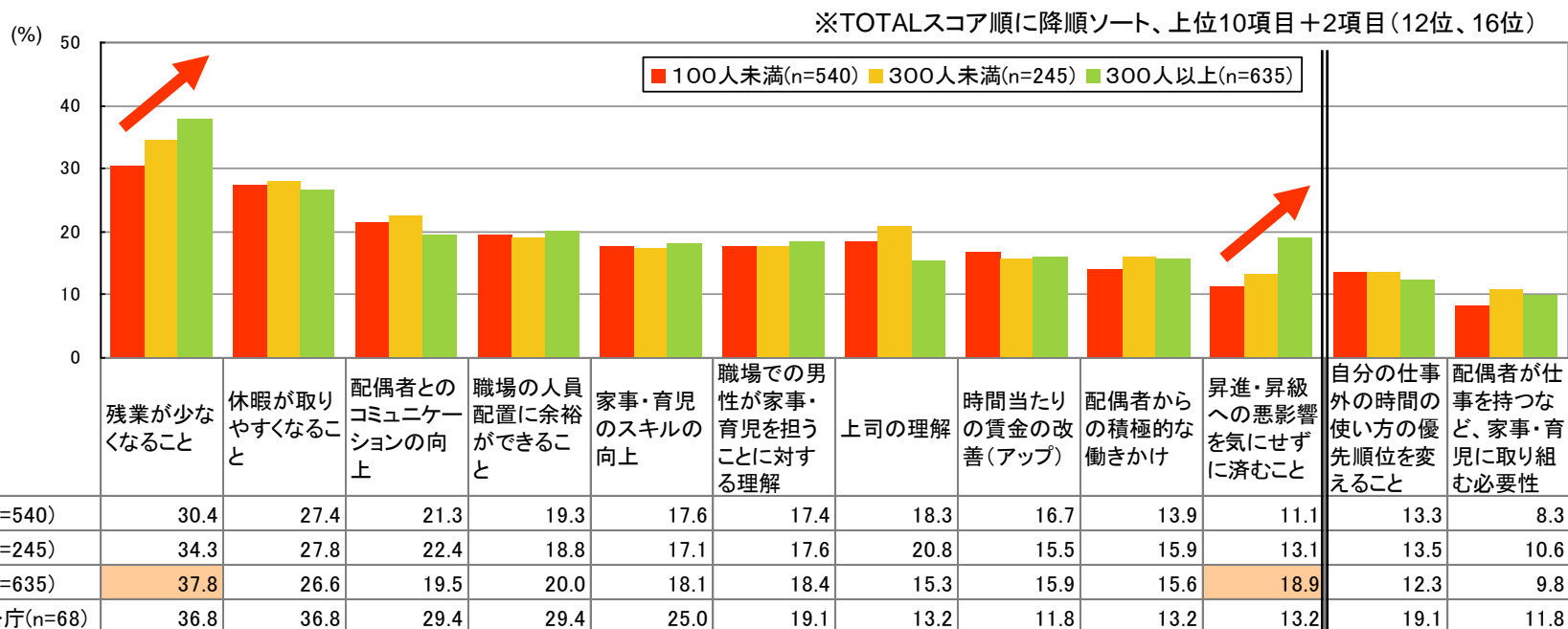
Q.あなたが平日の家事・育児を今まで以上にするために何が必要だと思いますか。(複数回答)【家事または育児が十分に実施できていない正社員】

※ ■ は、10時間未満に対して5%水準で有意に高い
 ※ ■ は、10時間未満に対して5%水準で有意に低い

家事・育児参画に必要と考えること (3) 企業規模別【正社員】

- 企業規模が大きくなるほど、「残業が少なくなること」と「昇進・昇給への悪影響を気にせず
に済むこと」の回答割合が高くなる。

●企業模別の平日の家事・育児を増やすために必要だと思うこと（複数回答）



Q.あなたが平日の家事・育児を今まで以上にするために何が必要だと思いますか。(複数回答)【家事または育児が十分に実施できていない正社員】

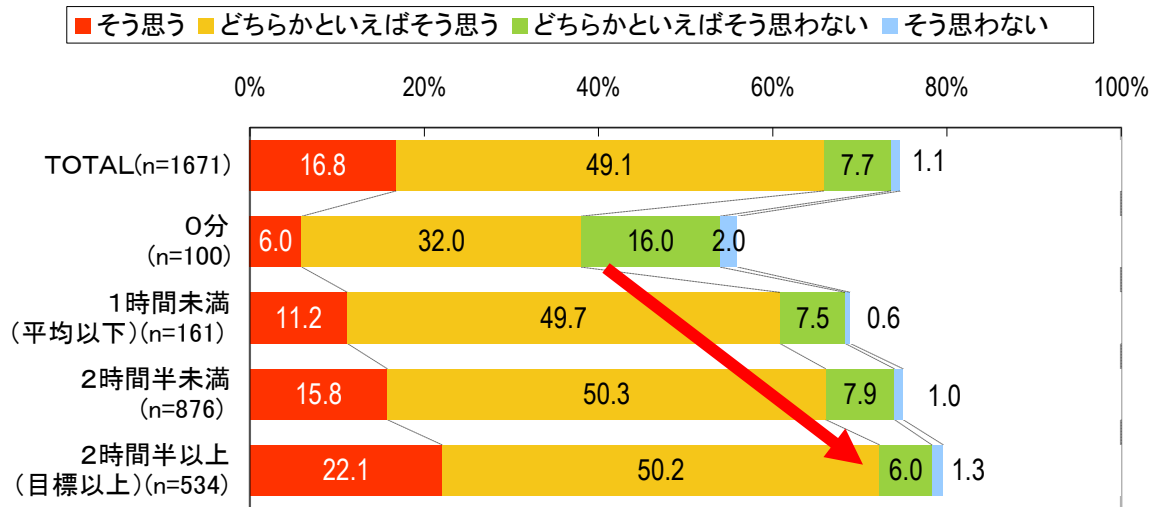
※■は、100人未満に対して5%水準で有意に高い
 ※■は、100人未満に対して5%水準で有意に低い

夫婦における役割分担の納得度と家事・育児時間 家事や育児の実施状況と配偶者とのコミュニケーション【正社員】

- 家事・育児の分担や配偶者の就業について、家事・育児時間が長い人ほど、「夫婦の適切な役割分担について、納得した」と回答する人が多い。

●夫婦の役割分担について等の話し合いの納得度

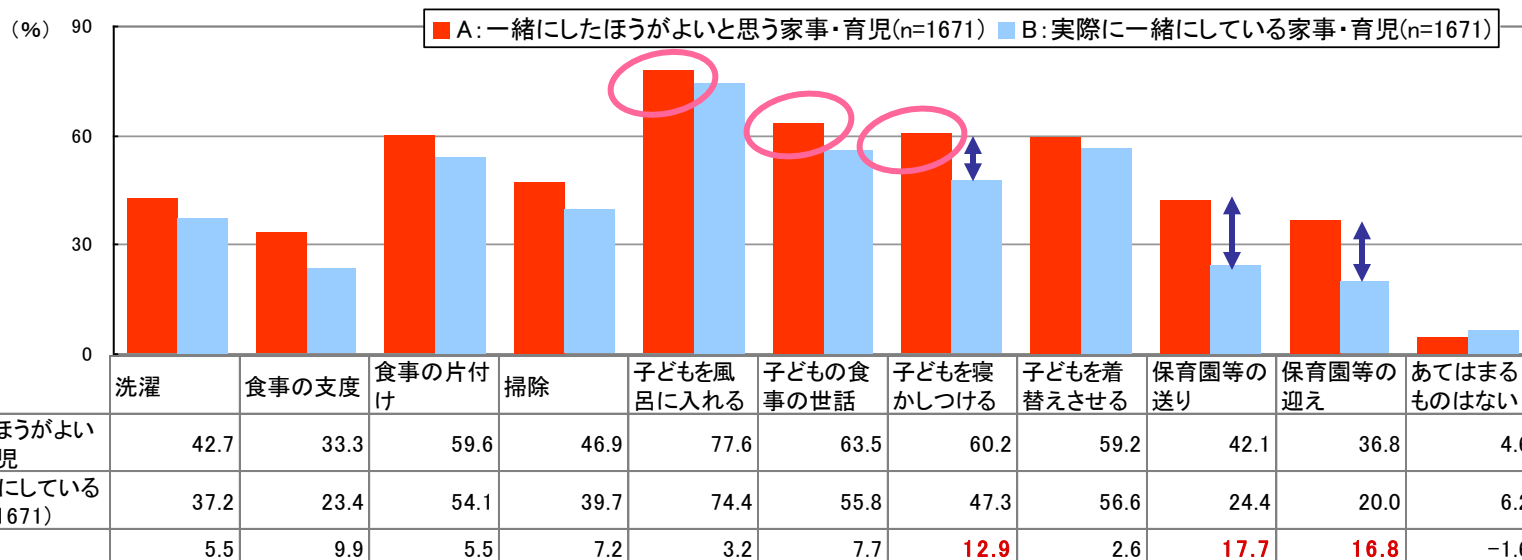
夫婦の適切な役割分担について、あなたは納得した



Q.家事の分担や育児の分担、配偶者の就業継続についてなど、何らかの話し合いをした方におたずねします。
あなたは、話し合いの内容や結果についてどのように感じましたか。夫婦の適切な役割分担について、あなたは納得した【正社員、全数で再集計】

家事・育児参画に必要と考えること (5)家事・育児に対する意識 夫婦で一緒にすべき家事・育児と実際【正社員】

- 一緒にしたほうがよいと思う家事・育児は、「子どもを風呂に入れる」が最も高く、次いで「子どもの食事の世話」、「子どもを寝かしつける」である。
 - 夫婦で一緒にしたほうがよいと思う家事・育児と実際のギャップが大きいのは、「保育園等の送り」、「保育園等の迎え」、「子どもを寝かしつける」である。
 - ギャップの最も大きい「保育園等の送り」では、実際に一緒にしていると回答した人の割合は、一緒にしたほうがよいと回答した人数の6割に満たない。
- 平日に夫婦で実施すべき家事・育児と実際にしている家事・育児（複数回答）



Q.お仕事をしている平日における以下の家事・育児について、ご夫婦で一緒にすべきと感じているものがあればお答えください。

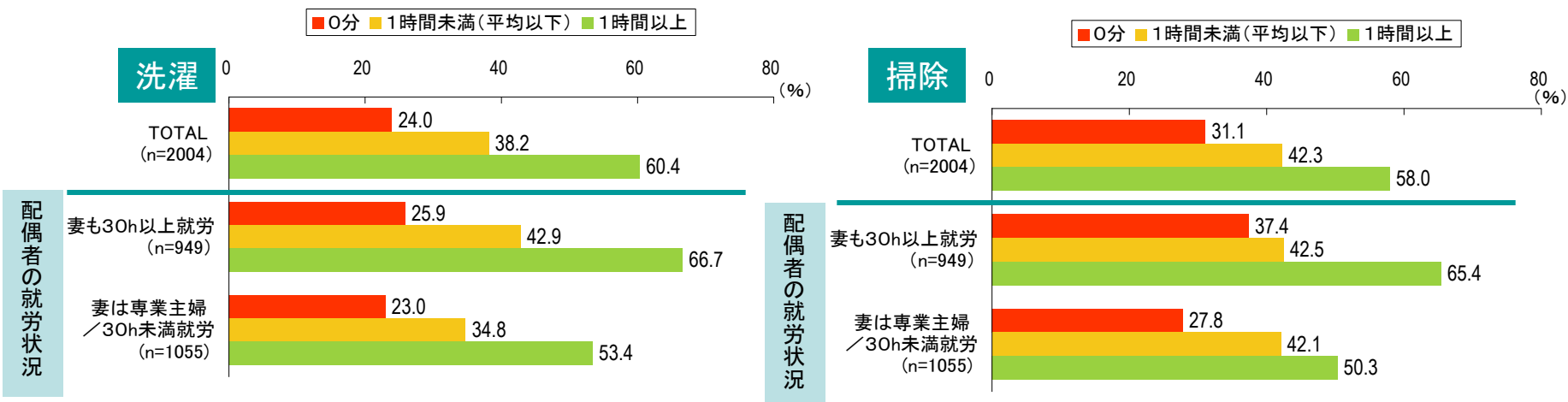
また、実際に一緒にしているものをお答えください。【正社員】

※一緒にする場合は、あなたもある程度主体的に行うイメージでお答えください。

家事・育児参画に必要と考えること (6)家事に対する意識 一緒にすべき家事 (家事時間別)

- 家事時間が長いほど、「洗濯」と「掃除」について、一緒にすべきと考えている人が多い。
- 妻が週に30時間以上働いている場合には、妻が専業主婦／30時間未満就労者より、「洗濯」、「掃除」について一緒にすべきと考えている人が多い。

●家事時間別の平日に夫婦で実施すべきと感じる家事・育児 (複数回答)



Q.お仕事をしている平日における以下の家事・育児について、ご夫婦で一緒にすべきと感じているものがあればお答えください。

家事・育児参画に必要と考えること (7)両親の影響

家事時間と男性の家事・育児参画に関する両親の意識

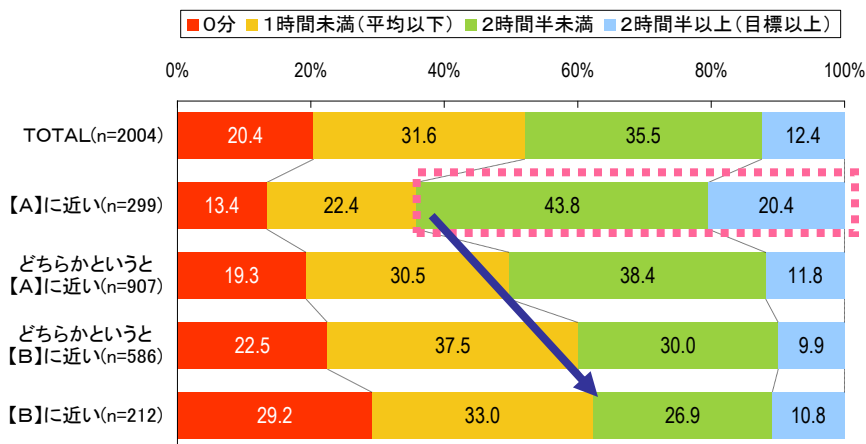
- 両親が「男性も家事・育児に参加すべき」と考えていた人ほど、1時間以上(平均以上)家事を行っている人が多い。

●男性の家事時間と両親の意識

A:男性も家事・育児に積極的に参加すべきだ

母親の意識

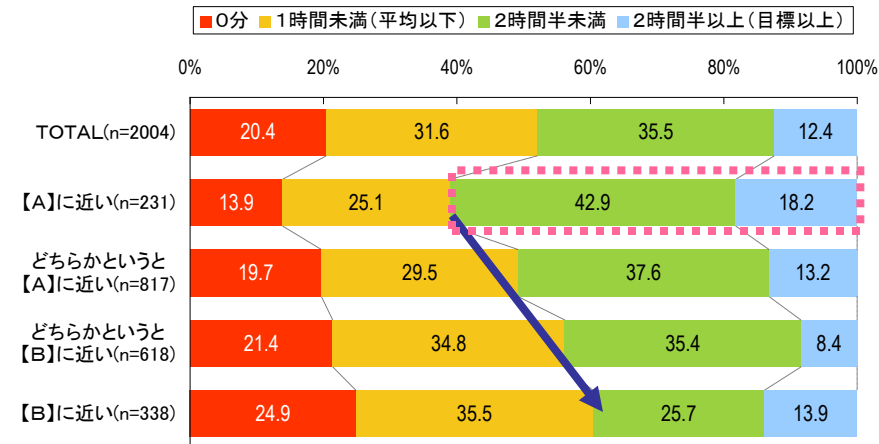
本人の家事時間



B:男性は仕事に専念し、家事・育児は妻に任せるべきだ

父親の意識

本人の家事時間



Q.あなたの小さい頃(概ね小学生の頃)、仕事や家事、育児に関するご両親の意識についてどのように感じていましたか。

以下、「A、B」のうち、あなたの感じ方に近いと思うものをお答えください。

※小さい頃に、父親、母親のいずれか、またはご両親が既に亡くなられていた場合は、あなたにとって、父親的存在、母親的存在の方を想定してお答えください。父親的存在、母親的存在がいらっしゃらない場合は、あなたの父親、母親のイメージで近いと思うものをお答えください。

家事・育児参画に必要と考えること (7)両親の影響

育児時間と男性の家事・育児参画に関する両親の意識

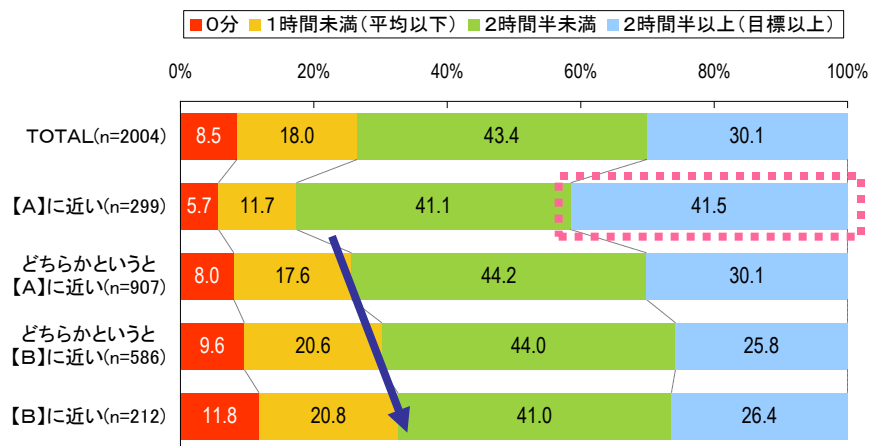
- 両親が「男性も家事・育児に参加すべき」と考えていた人ほど、2時間半以上(目標以上)育児を行っている人が多い。

●男性の家事・育児時間と両親の意識

A:男性も家事・育児に積極的に参加すべきだ

母親の意識

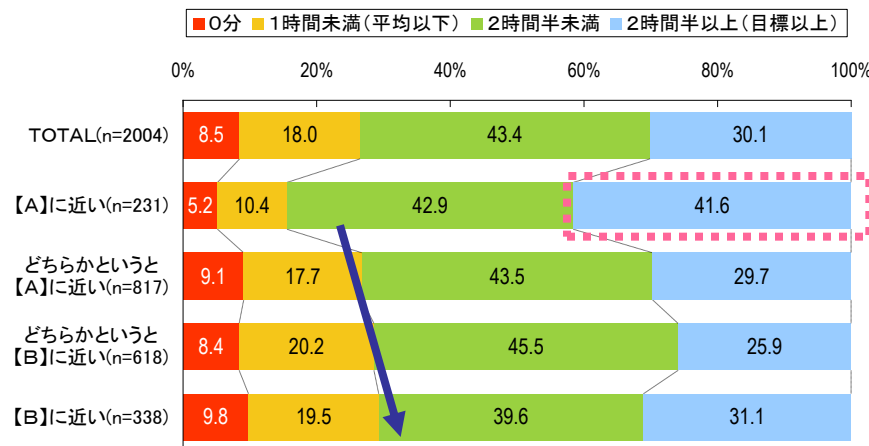
本人の育児時間



B:男性は仕事に専念し、家事・育児は妻に任せるべきだ

父親の意識

本人の育児時間



Q.あなたの小さい頃(概ね小学生の頃)、仕事や家事、育児に関するご両親の意識についてどのように感じていましたか。

以下、「A、B」のうち、あなたの感じ方に近いと思うものをお答えください。

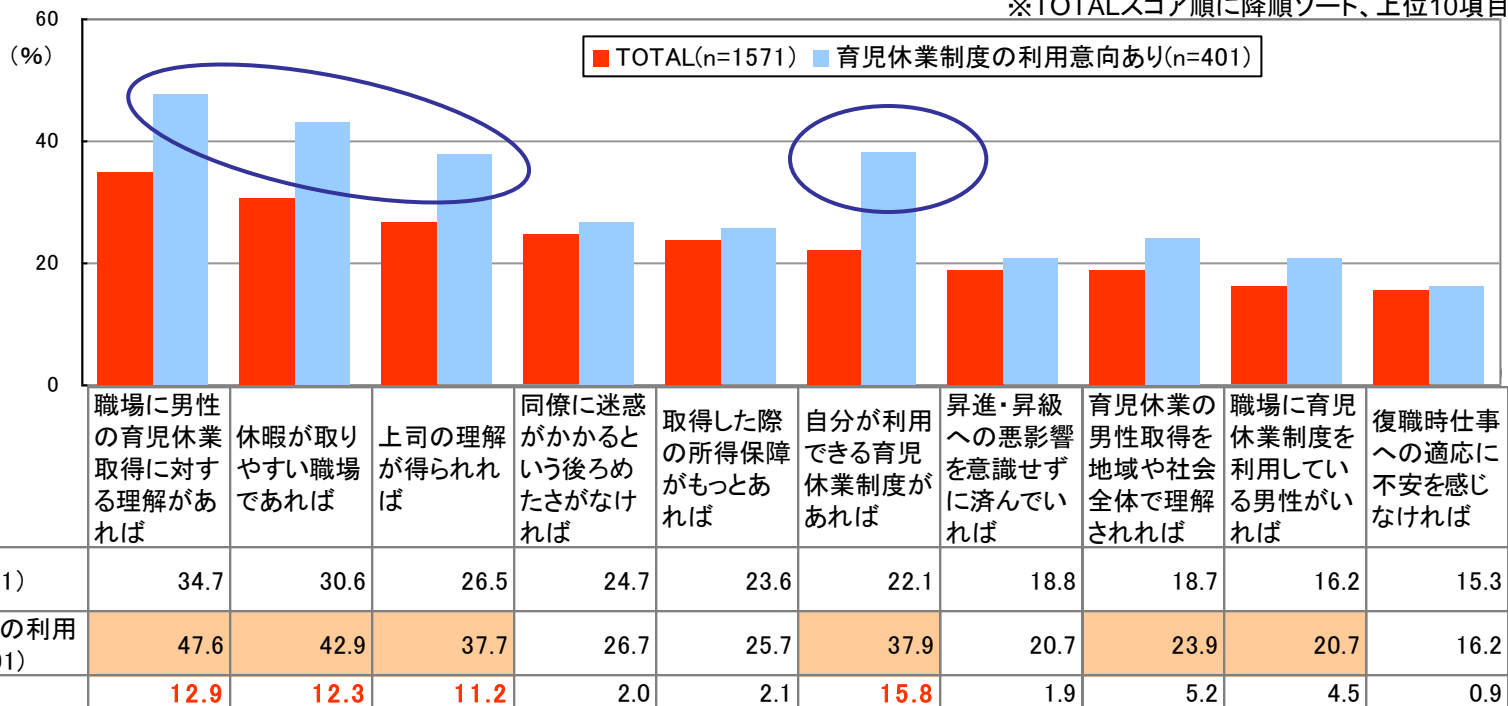
※小さい頃に、父親、母親のいずれか、またはご両親が既に亡くなられていた場合は、あなたにとって、父親的存在、母親的存在の方を想定してお答えください。父親的存在、母親的存在がいらっしゃらない場合は、あなたの父親、母親のイメージで近いと思うものをお答えください。

育休取得に必要と考える条件（1）育休取得意向別【正社員】

- 育児休業を取得したくてもできなかった人は、「職場」や「上司」の理解など制度の利用しやすいの雰囲気に加えて、自身が利用できる制度がないと考える割合が高い。
- 制度の有無や制度利用への理解に加えて、職場の雰囲気、制度の認知状況も育児休業取得に影響していると考えられる。

● 誕生前の利用意向別の育児休業制度の利用に必要なこと（複数回答）

※TOTALスコア順に降順ソート、上位10項目



Q.第1子が1歳6ヶ月になるまでの間で、「育児休業を利用しなかった方におたずねします。

次のようなことがあったら、あなたは育児休業を取得していたと思いますか。（複数回答）【正社員】

※「育児休業利用」正社員100s(6.0%)

※●は、TOTALに対して5%水準で有意に高い(参考)

※●は、TOTALに対して5%水準で有意に低い(参考)

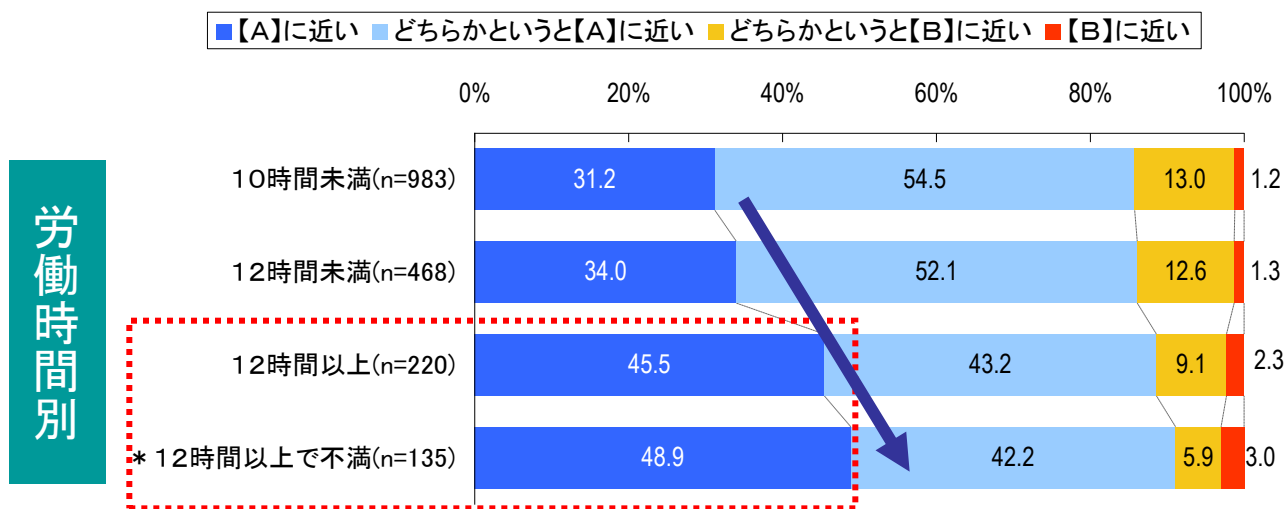
育休取得に必要と考える条件（2）上司の反応イメージ 【正社員】

○ 労働時間が長い男性ほど育児休業制度を利用することに対する周囲のイメージについて、「上司がよい顔をしない」に近いと回答した人が多い。

● 男性が育児休業制度を利用することに対する周囲のイメージ（労働時間別）

A: 男性が育児休業を取得すると、上司がよい顔をしないと思う

B: 男性が育児休業を取得すると、上司から好意的に受け止められると思う



※「12時間以上不満」は、12時間以上労働者で、現在の労働時間について「やや不満」「不満」と回答した人

Q. 男性の育児休業制度利用者について、あなたの周囲の考え方は、「A、B」の考えのどちらに近いと思いますか。【正社員】

育休取得に必要と考える条件 (3)両親の影響【正社員】

男性の家事・育児に関する両親の意識 (育休取得意向別)

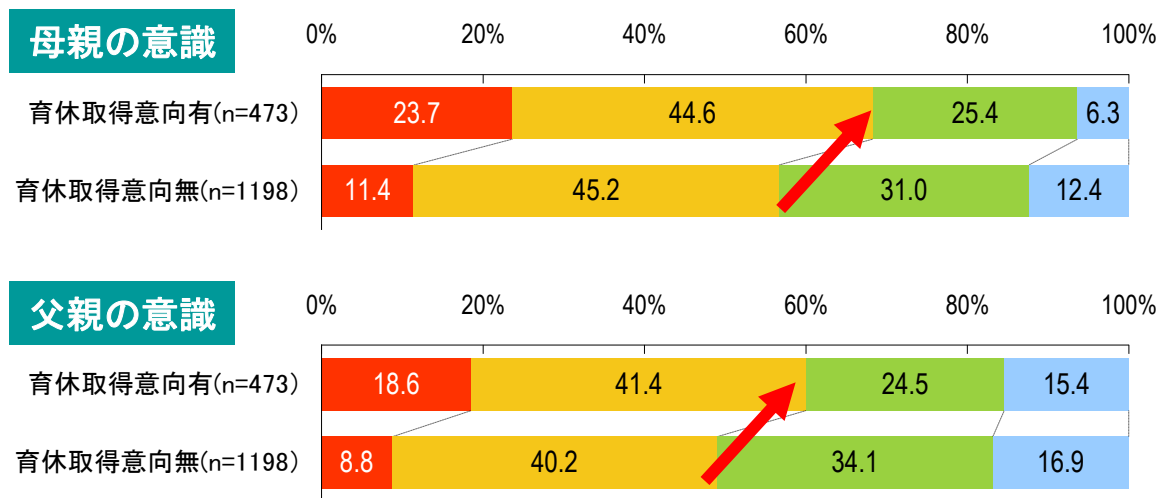
- 第1子誕生前に育休を利用したいと思っていた人は、小さいころの両親の意識について、父親・母親ともに「**男性も家事・育児に積極的に参加すべき**」と考えている割合が高い。

●男性の育児休業取得意向と両親の意識

A:男性も家事・育児に積極的に参加すべきだ

B:男性は仕事に専念し、家事・育児は妻に任せるべきだ

■【A】に近い ■どちらかという【A】に近い ■どちらかという【B】に近い ■【B】に近い



Q.あなたの小さい頃(概ね小学生の頃)、仕事や家事、育児に関するご両親の意識についてどのように感じていましたか。以下、「A、B」のうち、あなたの感じ方に近いと思うものをお答えください。【正社員】